

Le Akikogramme

Samedi 20 juillet 2019 <https://bretagnephotos100.travel.blog>

Instagram @nekosan_japan

Calvaire et chapelle de Tronoën 小さな村の古いカルヴェール



ブルターニュにはEnclos paroissial（聖堂囲い地）と呼ばれる、特徴的な宗教建築が残っています。16-17世紀の海運業界では帆船による航海が主流で、帆布のための亜麻栽培、帆布加工で経済的な繁栄を遂げたブルターニュではこの莫大な富で数多くの聖堂囲い地の建設を行う街が現れました。その宗教建築のひとつ、Calvaire（カルヴェール）はキリストの受難およびその聖なる生涯を描いたもので、昔、教会内部に入ることが許されなかった貧しい人々にも分かるように描かれた彫刻群です。



きょう、なに食べたい？

Poissons fumés

Crêperie le Galion

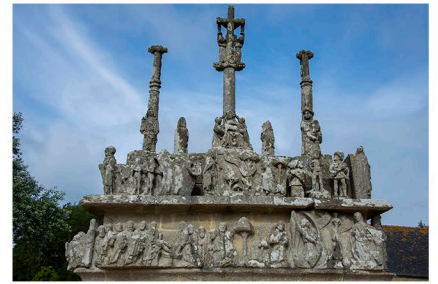
(2 Le Loch 29770 Plogoff)

Tronoën観光後はこちらのレストランで魚の燻製をいただきました。

鮭とマグロと鯖の燻製はしっとり、ほどよい塩味で美味しかったです。

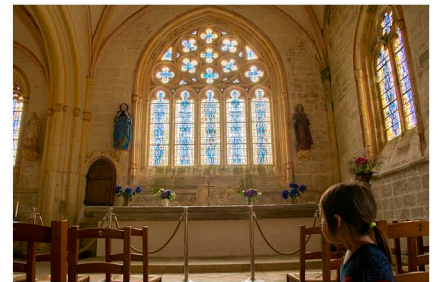


Calvaire de Tronoën



TronoënのCalvaireは、1450-1470年代に建てられたブルターニュの中でも古い彫刻です。長方形の台座に四方二段に渡ってキリストの生涯が描かれ、中央上部には二人の天使とキリストの像がそびえています。この彫刻群は花崗岩に彫られ、海から近いため海風による浸食、年月による風化が見られますが、彫刻群の生き生きとした表情や仕草は未だに健在です。

Chapelle de Tronoën



礼拝堂は長方形のシンプルな建物で、光が明るく美しく差し込むゴシック様式のバラ窓を備えています。